

## 第80回 宮城県災害対策本部会議 議事要旨

### 1 日 時

平成23年6月2日 10時00分

### 2 場 所

県庁行政庁舎4階 庁議室

### 3 配布資料

第80回宮城県災害対策本部会議資料

### 4 議事要旨

○村井災害対策本部長

・応急仮設住宅について、第1次から第9次分までとして15市町において213団地14,974戸が着工し、そのうち、139団地11,172戸分が完成した。5月末までに11,000戸の完成という目標については達成できたと考えている。そこに第10次分879戸を追加する予定である。よって、第10次までの合計は15市町において、214団地15,853戸となる。

離島へも建設を進めている。これまでに気仙沼市大島の2地区に63戸が完成し、塩釜市の浦戸諸島2地区にも27戸を着工建設中である。女川町の出島についても、建設の要望があるが、連絡航路とライフライン復旧後に着工する予定である。岩手県、宮城県、福島県で各々の目標に到達しているのは宮城県のみであるとして、国土交通省の政務官からお誉めの言葉を頂いた。

○小野寺危機管理監

- ・死者数については、前回より21名増加して9,034人である。
- ・行方不明者については、5,067人である。

- ・避難者数は前回より1,000人程減って、25,489人である。
- ・各部の被害額については、農林水産部関係で約300億円ほど増額し、合計2兆6,382億円である。

○今野総務部長

- ・特になし。

○伊藤震災復興・企画部長

- ・離島航路だが、大島汽船が前回までの5往復から8往復になった。震災前は12～13往復であった。

○小泉環境生活部長

- ・福島第一原子力事故に係るモニタリング結果について、低い数値で安定している。

○岡部保健福祉部長

- ・震災孤児について、前回報告は95人だったが、新たに3名の高校生が孤児になられた。仙台市、気仙沼市、石巻市で1名ずつ、いずれも親戚等により保護された。第1段として、10件18人、里親登録が承認された。
- ・災害ボランティアについて、5月30日に123人、31日に987人、これまで平日2,000名が大幅に減っているが、これは台風2号による大雨の影響と推測される。5月末までのボランティア数は累計で20万7千人を超えている。
- ・仮設住宅に関して、民間賃貸住宅による仮設住宅入居決定については、前回25,000件あまりの入居決定であったが、今回は2,805件が入居決定した。

○農林水産部

- ・被害額については1,753億円であり、養殖施設の推計値から調査値へ切り替えた為約3

00億円ほど増額となった。

#### ○橋本土木部長

・応急仮設住宅建設状況についてだが、要望戸数に対する着工戸数は残り7,000戸程度である。石巻市、気仙沼市、山元町、女川町、南三陸町が残っている。山元町については町で発注する。亘理町については追加要望があったが、今後ともしっかり対応していく。

#### ○自衛隊

- ・食料と給水支援は緩やかに減少傾向にある。
- ・支援物資のカタログが出来上がった。

#### ○竹内警察本部長

・遺体の状況だが、昨日は10体、30日が2体、5月31日に24体収容と1ヶ月ぶりに収容数20体を超えた。この三日間において陸上は36体のうち10体である。

・台風の影響で海が荒れた為、瓦礫や漁網に引っかかっていた遺体が浮揚した可能性があるかと推測している。

・5月合計で306体、1日平均9.9体の遺体を収容した。9,156体のうち、引き渡しについては家族が7,661体、市町村が1,483体（そのうち380体くらいは引き渡し後に身元反映）、合計9,099体であり、引き渡し率は99.4%である。

・震災後飲酒運転が昨年に比べて倍増した。死亡事件も1件発生した。5月が増えている。日曜日の夜が多い。半数は被災地もしくはそれに近接する地域の居住者である。被災によるストレスが原因と推測される。

- ・被災地及び近接する居住者による事故が多発している。

○教育委員会

- ・被害額が約35億円増額した。

○村井災害対策本部長

- ・東内閣府副大臣より昨日自身の政治的信念に基づき辞表を提出したとの連絡が入った。

辞表が受理された場合、政府に対する新たな要請が必要であると考えている。

- ・次回は6月6日10時00分に開催する。